

幼児教育アドバイザーについてのアンケート結果

回答期間 令和2年9月中旬～10月16日（金）

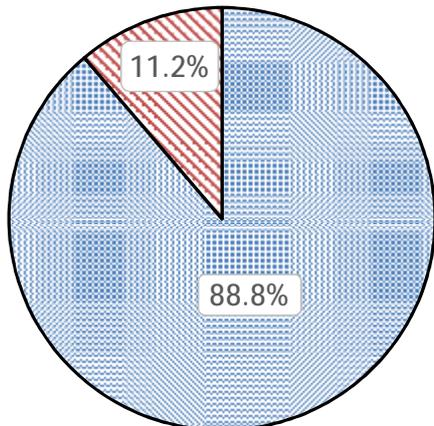
調査対象 幼児教育アドバイザーの在籍する園所の所属長

回答数134園

1 園所内研修について

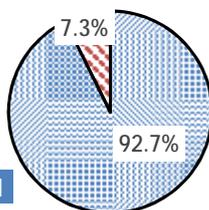
(1) 園所内研修の実施と回数

回数 891回 1園あたり6.6回



■ 実施した
■ 実施していない

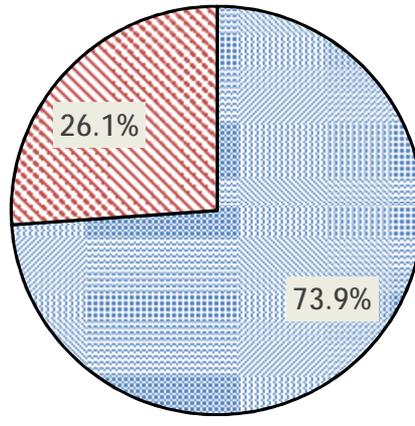
令和元年度



1園あたり7.4回

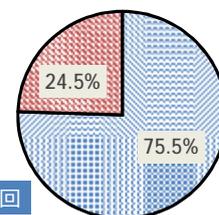
(2) 幼児教育アドバイザーを活用した園所内研修の実施と回数

回数 466回 1園あたり3.4回



■ 実施した
■ 実施していない

令和元年度



1園あたり3.6回

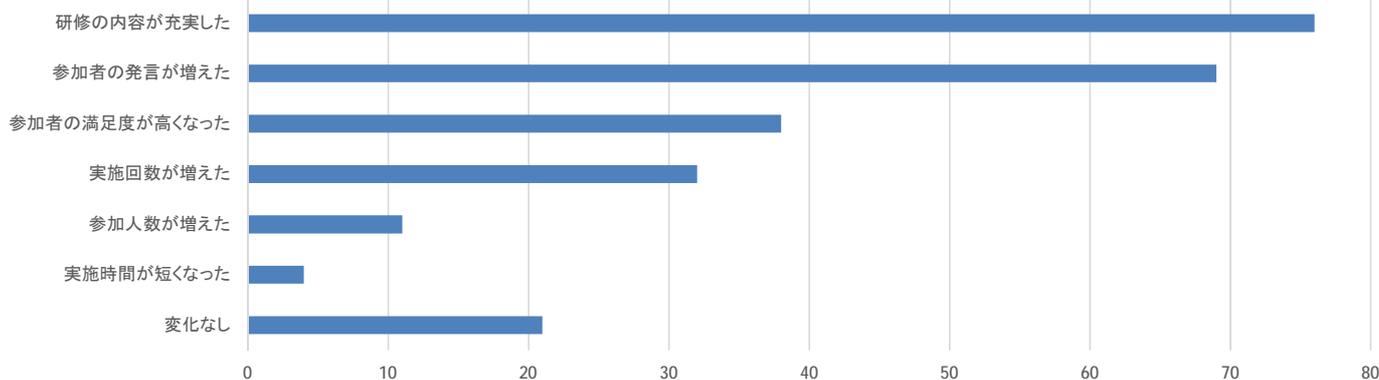
今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、昨年度より少し、実施率は低くなっている。しかし、1園あたりの実施回数に大きな変化はなく、研修の重要性は、浸透しつつあることが伺える。記述から、「今年度は、新型コロナウイルス感染症対策で、集まる機会が減った。」

「研修は実施できなかったが、会議等は増えた。会議の在り方も建設的、効率的になってきている。」等の意見があった。

幼児教育アドバイザーについてのアンケート結果

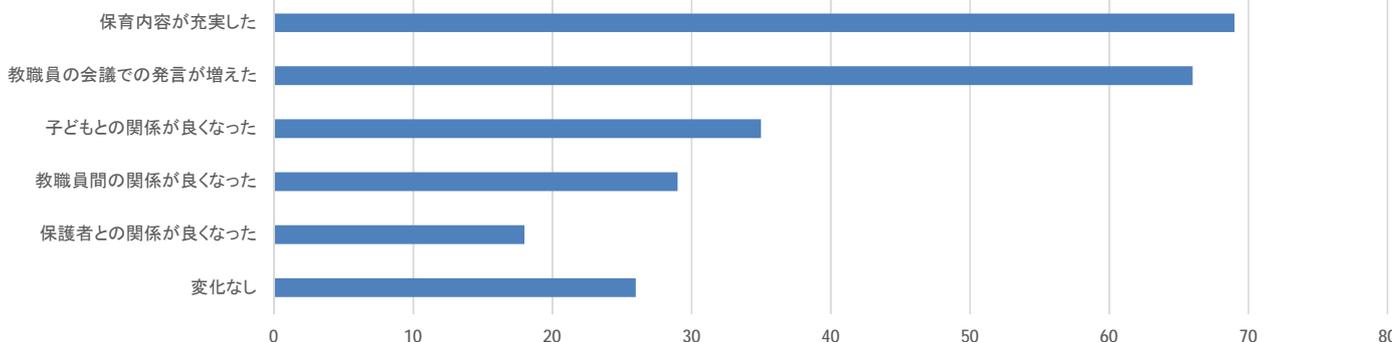
(3) 園所内研修の変容度

「職員が参加し、意見交換する研修を増やした。」等の意見が多く、園所内研修の内容の充実、参加者の発言、参加者の満足度において、特に変容度が高い。



2 園所内の充実度

(記述コメント)・研修が充実することで、職員間の共通理解や幼児理解が深まり、保育実践の充実につながった。
・会議は連絡事項が中心だったが、職員の意見を聞いたり、発言の時間を設けたことで、職員が自分事としてとらえるようになった。

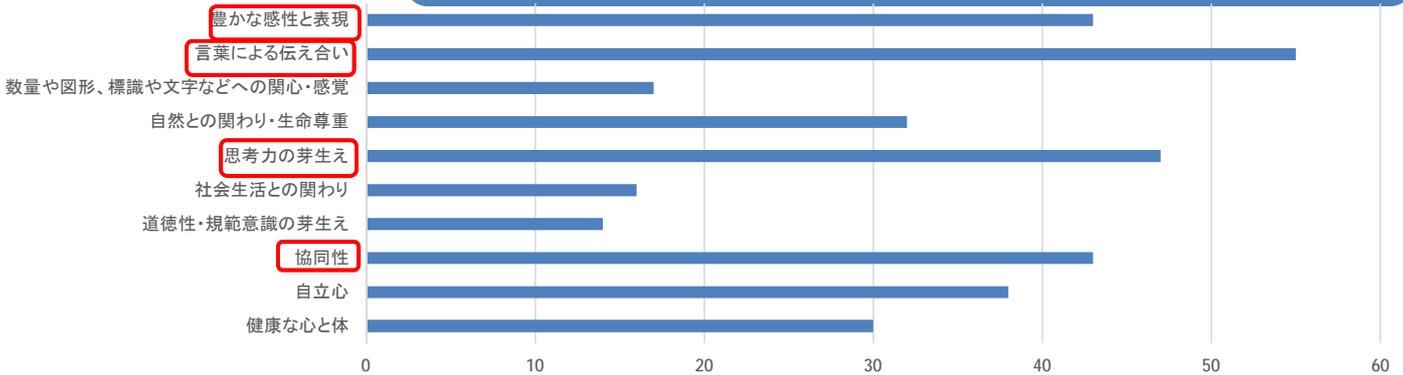


幼児教育アドバイザーについてのアンケート結果

2 園所内の充実度

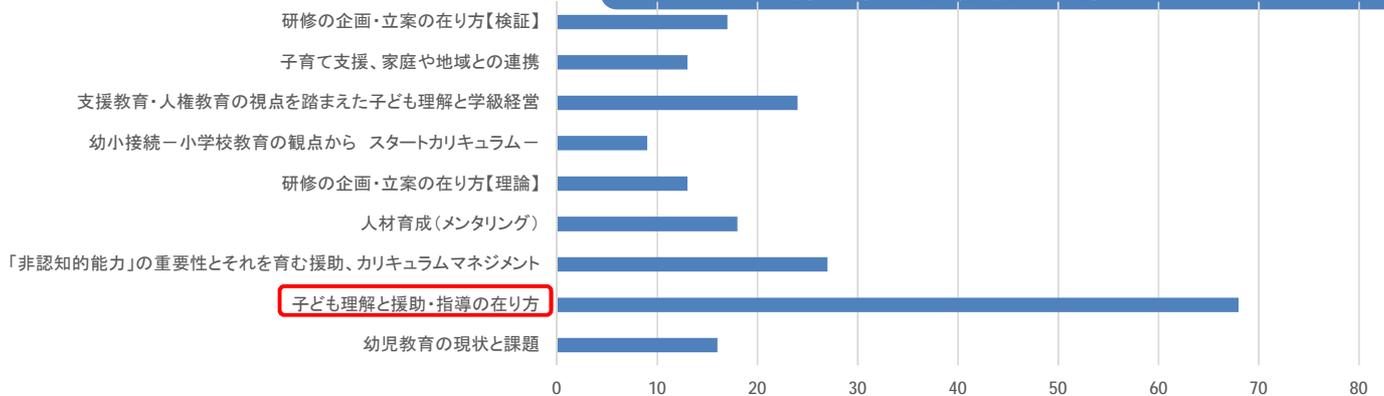
(1) 子どもの姿の様子の変化

(記述コメント)・園内研修を実施し、共通理解を図りながら保育をすることで、子どもどうして工夫したり、話し合う姿が多くみられるようになった。
・園内研修を通して、スケジュール重視から子どもの遊びこんでいる姿を尊重する保育に変わりつつあり、子ども自身が考えたり、工夫したりする姿がさらに増えた。



(2) 幼児教育アドバイザー育成研修の内容の活用度

(記述コメント)・みんな一緒がいいと考えがちだったが、一人ひとりの子どもの様子、背景、成長段階を見て、一人ひとりにあった援助が必要であることが浸透してきた。

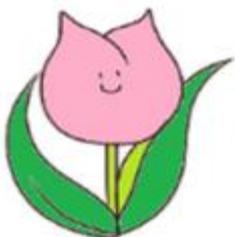


幼児教育アドバイザーについてのアンケート結果

3 大阪府幼児教育センターについて

幼児教育センターへの要望

- ・同じ状況の園の他のアドバイザーとの意見交換の場があればと思う。
- ・近隣園の公開保育への参加など、実践型のフォローアップ研修の充実に期待する。
- ・アドバイザーが中心となった保育実践や研究などの情報を発信してほしい。
- ・実際の保育をどのように評価(園内で評価)していくかという内容の研修を実施してほしい。
- ・幼小連携や公私連携の事例などを知りたい。
- ・アドバイザーを地域においてもっと活用すべきである。そのために、市町村が研修プランをアドバイザーを交えて話し合う場があればいいのではと思う。
- ・新型コロナウイルスの状況にもよるが、集合型の研修は、他園の職員とのコミュニケーションがとれるので、今後の再開に期待したい。



フォローアップ研修への期待、実践事例の普及などの意見が多くありました。また、現在の研修の在り方について、Web研修が受講しやすいという意見もある反面、他園の方とのコミュニケーション、情報収集などの観点から、集合研修に参加したいという意見も多くありました。
フォローアップ研修の充実、幼児教育推進フォーラム等での実践発表により、好事例の普及に努めます。
市町村の協力を得ながら、幼児教育の体制づくりを図っていきます。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。